

ひよし川柳会

ゆらゆらと川面に降りて遊ぶ月

水野すみこ

名月を眺め味わう芋煮会

松本 立子

病む妻に如何ですかと十三夜

若宮 賢敬

偶数の月が嬉しい古い二人

山本 雅之

月賞でて月に送られ行く夜勤

渡辺 照子

月下美人息を潜めて待つ開花

宇津本アヤ子

目ぼこりがころころ美女に見てもらい

渡辺 光男

ころころの石を蹴飛ばし歩く足

川添 忠昭

政治家のころころ変わる合言葉

米子 達雄

朝令暮改又かと部下の愚痴になる

宮川 柳酔

幸が華麗に咲いた披露宴

男武志津江

女性大臣五人活躍時の華

熊本 忠真

一期一会出会い楽しむ万華鏡

金子すすむ

我が家にも父が作ったミニルール

栗木 一郎

新涼や競り声高き魚市場

大川 眺春

十六夜は昨日にまさる光かな

毛利 敦

花芙蓉一日の命淡々と

小西 あや

何も持たぬことの軽さよ秋風裡

梶原 一美

今生の限りを尽し法師蟬

松岡 寛孝

七輪の焼くより燃える秋刀魚かな

伊藤 京

子の思ひ親の思ひよ鰯雲

福本 恵子

独り身の米研ぎこぼす秋の暮

井谷 けい

新涼や影にぬくもり残しをり

高橋 妙

久に書く文筆涼の新たななる

浜田 千鶴

天と地が出会ふ場所あり萩揺れる

長田 徳子

ちちろ鳴くくさめするのも気を使ひ

高田 弘子

夏休み少女の姿大人びて

藤田 光子

愛媛若葉ひろみ句会

鬼北の足跡を辿る…【第10回】

幻の「ルーミスシジミ」



ルーミスシジミ
※「東宇和自然史研究会」より提供

表題を見て、いったい何の名前だろう？と思われる方が多いのではないかと思います。実は、チョウ目・シジミチョウ科に属するチョウの名前。先日、町民の方からこのチョウに関する情報を提供していただきました。地域の文化財の掘り起こしには、町民の皆さんの情報提供が不可欠。知識不足の担当者にとって、頭の下がる想いであります。

旧広見町・松野町でしか生息が確認されておらず、昭和32年から昭和42年にかけて、成川溪谷キャンプ場で採集された記録と松野町で一匹の採集があったのを最後に、その後はまったく確認されていません。こうしたことから、愛媛県内では絶滅したと考えられています。

このチョウの食樹はブナ科のイチイガシですが、林道開設に伴う伐採により、生息地の環境条件が悪化したことが絶滅した原因と言われています。

かつて、成川溪谷の木々の間を活発に飛び回っていたであろうルーミスシジミ。彼らの楽園であったこの溪谷から姿を消して50年の月日が経とうとしています。この町のどこかの山に、彼らの生息に適したイチイガシの森があるとすれば、コバルトブルーの羽で飛び回る美しい姿が見られるのでは…そんな期待を秘めながら幻を追い求める想いは尽きません。